

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

平成30年11月9日（金） 南日本新聞

南日本新聞の「若い目」に、本校の1年生の紫尾山登山についての投稿が掲載されたので紹介します。

若い目

初めての紫尾山登山

薩摩中央高1年

町 佳澄

私は今年、福祉の勉強をするために地元の高校に進学した。新しいことに挑戦してみたくなり、仲良くなつた友達と同じ剣道部に入った。

私は未経験者だったので、正座や礼の仕方、すり足、素振りなど基本的なことをずつと練習してきた。足や手にまめができては破れ、毎日痛いのを我慢して

頑張ってきた。

ある日、先生に「学校からいつも見えていて、校歌にも出てくる紫尾山に登ったことがあるか」と聞かれた。私をはじめ、ほとんどの部員が登ったことがなかったの、県大会の前になつた。

いつ頂上に着くかわからずひたすら登り続けるのは、足も痛くなるし、精神的にもきつかった。頂上に着いたら、地元のさつま町はもちろん、桜島や霧島連

山、反対側の出水平野や甌島などまで360度見渡せた。とてもきれいな景色に感動した。

試合を控えて不安でいっぱいだが、この雄大な紫尾山が見守ってくれていると思ひ、初心者なので負けて元々、今できることをすべて出し切れるように、精いっぱい頑張りたい。そして、この部活動をコツコツと最後までやり遂げたら、どんな感動が待っているのか味わってみたい。

(さつま町)